

2007.5.29

## 定例会議事録

日時：2007.5.19 14:30-16:00 福祉センター 2F

参加者：長谷川・岩本・相馬(唐)・緒方・米田・寺園・矢野・斉藤・相馬(な)・相馬(成)・中條・坂巻・  
堺(義)・堺(初)・坪井・深沢・池田・森田 18名

1、ホオジロウォッチングの反省 (別紙参照)

2、総会の目次

### ・2007.6.11の総会 16:00～ けやき台集会所

(西白井南口徒歩3分 セブンイレブン斜め前)

・欠席：高野さん、相馬(成)さん、永瀬さん

・名簿、メール、携帯番号

・携帯番号は、緊急連絡時に使用する。名簿に掲載が不都合な方は事務局まで連絡ください。

・06年度活動報告(森田)

・06年度収支決算(斉藤)

・07年度活動計画(後期の予定)(森田)

・07年度予算(案)(斉藤)

・役員改選

タウンミーティングのことが後期日程にはいる

環境フォーラムの担当を決める

・月1回開かれる会議に出席し、内容をもちかえる。担当募集中。

当面、長谷川先生で対応してもらう。

指標種の再確認すすみ具合、担当 (5、参照)

土地利用図

図鑑(写真をとりためる)

谷田のガイドブック作り

パワーポイントの作成(作業に問題がある?)

新会員募集について

市民参加する場合の共催・協賛について

### ・2007.6.11の総会後の飲み会 18:30～

はなの舞 約20名 会費 最低¥3,500です。

3、博物館見学について

- ・維管束植物の標本づくりと目録作りについては、岩本さんがとりまとめ。
- ・地衣類・コケ類の標本作りは森田さんとりまとめ。
- ・各担当が、博物館担当者と日程調整をおこなってほしい。

#### 4、コブシのまとめ（斉藤さん）（別紙参照）

- ・ダブルカウントしている部分もある。
- ・注目していたコブシがなくなっていないかどうか確認をお願いします。
- ・コブシ密度の高い地域

谷田、平塚、二重川上流地域、「白井が丘墓地」周辺の樹林地、競馬学校周辺など

- ・調査の空白場所の調査
- ・「白井のコブシ ベストテン」「わたしの一本」「白井・コブシの花見」の提案

#### 5、2006年度指標種調査について（長谷川先生）

- ・指標種の説明と、担当者のコメント発表。2007年度も引き続き同じ担当者が指標種をまとめる。やり残した場所の調査継続。
- ・記録者のコメントを入れる、指標種の追加と充実が目標

#### 6、2007.5.30 平田先生フロラ

- ・10：00 市役所集合、午後出席の方は連絡ください（岩本さんへ）

## ・出席する方は必ず連絡

#### 7、タウンミーティング 2007.6.24

場所 印西市市民活動支援センター（予定）

時間 PM1：30ー3：30（予定）

北総里山クラブとして里山保全活動第1回会議を開く予定。

- ・2006.5.19 は、県庁に谷田・武西地区保全の要望書を提出した記念の日で、丸1年経ちました
- ・2006.12.10 タウンミーティングを開催し、里山をいかしたまちづくりを提案しました。
- ・研究者の集まり（専門委員会）と地域から提案（県民会議）の両方の流れから、千葉県は「生物多様性ちば」の戦略策定しようとしている。
- ・2007.6.24 に15団体の連絡協議会を開く。
- ・この地域の将来をどうしていくか。経済システムをどうしていくか。地域農業を継続させた構想について、具体的な提案をしていく。市民団体の持ち味をいかしていく。
- ・県民会議でモデル事業として予算申請を検討している。具体的な提案として、武西・谷田を提案したらどうか。（NPO 法人しろい環境塾 上西さんから話があった。）
- ・北総生きもの研究会は、生きものを守るためにはどうしたらよいか、を提案する。

市民からの具体的な意思表示をする。

・印西市・白井市は千葉県に武西・谷田の保全に関する要望書を提出した。白井市は、谷田地区については保全していくことを市長決済した。印西市は、現在、武西の自然環境調査が行われている。1年間の調査でも充分結果がでる。両市が足並みをそろえた状態で、県との交渉にのぞむことになる。

・武西の地権者には、県・市の動き、自然環境調査のことなどまだ話は伝わっていない。

## 8、その他

### 【市民参加する場合の東邦大学との共催・協賛について】

・東邦大学理学部が共催・協賛することで、PR効果が高いもの、学生と市民との交流の場になるものに関しては、カラーコピー代など大学の広報予算で工面する。

・現在、共催を考えているもの、ホオジロウォッチング、手賀沼親水公園での研修および、金山落の河川生物調査、カメの調査を考えている。

### 【ホオジロウォッチングの反省 2007.5.19】

・名簿に班名をいれると受付しやすかった。

・雨の判断の難しさを体感した。見どころがあったことがホオジロを多く見られなくても救いとなった。

・下見時と現在とでは雛がでている可能性があり、確認数がちがう場合があるので、来年ホオジロウォッチングを行う場合、5月19日の前後がよいでしょう。

・カワセミが林まで来ていた。

・活動の裾野を広げることもあわせて考える。

・下見でも長かった。

・小学6年生の距離としては、今回の法目コース（短縮コース）がちょうどよかった。

・雨でもあり、距離が長かったため、車で迎えにきてもらった。いろいろな分野の東邦大学生の皆さんがいたので、非常にたのしいホオジロウォッチングだった。

・緊急連絡をしても、携帯がつながらなかった。緊急連絡時の体制の見直しが必要。

・参加者がコースを選べるように（健脚コースなど）するとよかった。

・雨の場合を想定して、short cutできるようにルートをあらかじめヒョウタン型にしておくとよいでしょう。

・参加者には、お土産と達成感を持って帰ってもらう。お土産は、パンフレットであり、達成感は、作業することで得られる。例えば、参加者模造紙に地図を描き、参加者にホオジロのいた場所にシールをはってもらう作業をしてもらったらどうか。

・子どもたちが最後にあきているのが見受けられた。子どもたちがあきない工夫と、子ども用スタッフをつけるとうよかった。

・池の上調整池コースは、白井駅前センターを起点にするとよかった。

・ホオジロのレクチャーをする人をいれるとよい。観察会を有意義にするために、+アル

ファアの要因、観察員の度量などが考えられる。

・天気の判断は、7:00のニュースで判断し、判断者を入れるとよいでしょう。連絡網も組織図をつくとよい。

・コースは80mでも観察会はOK。参加者に「どうしてだとおもう？」と意見を聞く。そうすることで、周囲の小川や風景が見えてくる。ケビン氏は、おどろきやパフォーマンスをいれて、参加者をひきつけていた。だから、距離が短くてもよい。

・雹（ひょう）や雷に気をつける。避難する場所を見つけておく必要がある。

・調査と観察会をわけて行うとよかった。タイムキーパーや、子どもたちをケアするスタッフが必要だった。

・ホオジロの観察会では楽しめた。池の上調整池など水辺環境がよい。ホオジロがとまる木、その木はどんな花が咲くか、その花にはどんな虫がくるか・・・など、ホオジロを通していろいろな生物へと広げていける。

・ホオジロの下見を4月29日に行い、ホオジロを確認できたということを知った。このことから、ホオジロは2週間経っても確認できるし、個人でも、みんなでも楽しめる観察相手ということが出来る。ホオジロは、PRできる指標種と思う。

・

・ホオジロのさえずりがおもしろかった。白井市は自然が残っていておもしろい。

・池の上調整池から二重川にかけて開発の手が入っていくのがわかる。カエルや水辺環境が悪くなってきている。ホオジロやヒバリなど一般鳥類の繁殖活動を調べることで、環境のうつりかわりが見えてくると思う。

・ホオジロウォッチングを通して、季節によってホオジロのいる場所がちがう。探し方も異なることがわかった。生態調査は面白い。

・いつも地面を見て歩いていたので、ホオジロを探して上を見て歩くのは楽しい体験だった。今まで生きものと環境を考える余裕が無かったですが、ホオジロ観察の終わった後でこのように集って考えることが重要だと思う。

・ホオジロウォッチングが、今後どのように変わっていくか楽しみである。観察会終了後考える場をもうけるとよい。

・二重川から神崎川の土手はいいコースだが、今回、急な雨で雨宿りの場所もないし、行くも地獄、帰るも地獄という感じだった。